



江頭博幸氏を偲ぶ会開催

五月三日(土)午後二時から小倉リーセントホテル玄海の間で「江頭博幸氏を偲ぶ会」を「さわやか」主催で行いました。江頭さんは長年北九州市で生活をしておられ、それまでにご縁のあった方々に集まっていたいただき喜んでいただくことが出来たと思います。



参加者全員で記念写真

来賓として北九州市議会議員の戸町武弘様、福岡県腎臓病患者連絡協議会の事務局の中島由希子様、北九州市障害福祉団体連絡協議会の会長北原守様においでいただきました。

その他に北九州市障害福祉団体連絡協議会の古賀由美子事務局長をはじめ四名の方と腎友会の関係の方々がお見えになりました。

また遠方からは、佐世保市、佐賀市、福岡市の通院送迎団体の方々等、総勢四十三名の方にお集まりいただきました。

改めて故人の手柄を

思い知らされた

初めに山田理事長は「本日は、去る一月十四日に逝去いたしました、当法人の前理事長『江頭博幸を偲ぶ会』にお忙しい中、たくさんの方々にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

江頭さんは北九州市で難病及び透析患者の患者会活動や当法人の創設者として、大変多くの方々とのご縁をいただきました。

そこで、北九州の地で偲

ぶ会を開き、故人とご縁のあった皆様に思い出等の話をしていただき、偲んでいただくことと思います。

そして本日は、北九州市内はもちろん福岡市や佐賀市、佐世保市等からもお越しいただき、改めて故人の手柄を思い知らされております。

また、江頭さんとの思い出の品々を展示させて頂いておられますので、お時間があつた時に観覧していただければ嬉しく思います」と挨拶がありました。

続いて来賓挨拶として北九州市議会議員の戸町武弘様は「江頭会長の偲ぶ会



北九州市議会議員 戸町 武弘氏

様は「江頭会長の偲ぶ会



お話をさせていただける事は私自身、とても光栄に思っております。

「さわやか」の使命は 大切な事

大切な事

実は、父も透析をしておりましたがその頃、私は働いていた為に、なかなか父を病院に車で連れて行く事が出来ませんでした。

その時初めて、透析患者を家族に持つて、本当に大変だと思いました。

そういう意味でも『さわやか』の使命とは大切な事だと思えました。

そして、それを発足していただきました江頭会長には本当に感謝しております」と話されました。

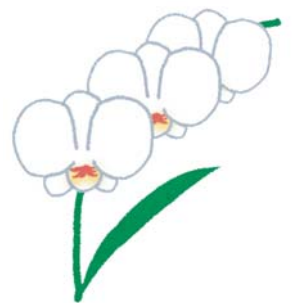
次に福岡県腎臓病患者連絡協議会事務局次長の中島由希子様は「江頭さんは福岡協の五代目会長として、多くのご指導をいただき、学ばせていただきました。



福岡県腎臓病患者連絡協議会 事務局次長 中島由希子氏

また豊富な知識と行動力のある方で、感心するばかりでした。

ご生前、多くの本を読まれ、ご自分の生い立ちの本を出版する等、持ち前の語学力



を發揮されました。

また昨年、四十周年の福腎協大会後に江頭さんから事務局に手紙が届きました。皆様の心の中で

語り継がれていく それを江頭さんが亡くなられた後の福腎協情報の第二四五号に掲載させていただきました。

このような素晴らしい先輩を亡くした事は、非常に残念な気持ちです。

これからも皆様の心の中で語り継がれていくと思っております。本日は皆様と大いに語り合いたいと思っております」と話されました。

その他に北九州市障害福祉団体連絡協議会の北原守会長と友人代表の白井征四郎氏が挨拶されました。

また一般社団法人全国腎臓病協議会の常務理事・事務局次長金子智氏からメッセージをいただきました。(左上参照)

(裏面につづく)

『何とかなるよ、大丈夫だよ』と

皆様の献花で祭壇が完成

次に喪主の江頭眞紀子様
に献花をしていただき、続
いて各テーブルごとの献花
によって、江頭さんの遺影
の周りが白いカーネション
で埋め尽くされました。

最後に「さわやか」レデ
ィースが四人揃って江頭さ
んに感謝を込めて献花を行
ない祭壇が完成しました。

次に特定非営利活動法人
通院送迎センター「ステッ
プ福岡」の落合律子理事長
は「江頭さんの力をお借り
しながら、『ステップ福岡』
は福岡県内で二番目の通院
送迎を開始し、現在にいた
っております。

それまでには色々な事が
ありましたが、それ以上に
患者さんが大変な思いをさ
れている事をお手伝いする
事が私たちの使命でござい
ます。

そして全国の中で、九州
三県（福岡・佐賀・長崎）
は通院送迎が続いております。

それは江頭さんが九州三
県が仲良く、困った事等を
話せる『九州三県合同研修会』
を持ち回りで担当しながら

優しい笑顔で

行なう機会を作っていただ
いた事が、継続に繋がって
いると思っております。

江頭さんはいつも優しい
笑顔で『何とかなるよ、大
丈夫だよ』と支えていただ
いた言葉をしっかりと覚え
ております。

その言葉を胸に私たちは
通院送迎を患者さんと共に
仲良く、理解しあつて頑張
つていきたいと思っております。



詩吟『名槍日本号』を
披露した神田正巳さん



同窓生の音頭により
参加者全員で『焼酎の歌』を



ご自慢の腕前で
サクソ演奏

偲ぶ会スナップ集



感謝を込めて
献花を



江頭博幸氏を偲ぶ会



それぞれの想いを胸に



ます」と話されました。
『何かあった時には
その時に考えたら良い』

また特定非営利活動法人
通院送迎サービス「ふれあい」
の南川正一事務局長は「富
崎前理事長が佐賀県でも通

院送迎をしようと話してい
た時に江頭さんに佐賀県で
も通院送迎が出来ないかと
相談しました。

その後、県庁などに助成
金の交渉に行き、九八年十
月に『ふれあい佐賀』を立
ち上げる事が出来ました。

その時に江頭さんは『何
かあった時にはその時に考
えたら良い』と言われました。
その気持ちを胸に佐賀県
で通院送迎を始めました。

江頭さんが通院送迎を始
めていただいたお陰だと思
っております」と話されま
した。

江頭さんの行動力を見習い

今後も活動を行なう

続いて特定非営利活動法
人「ほほえみ佐世保」の久
保寿光理事は「私は、皆様
の中では江頭さんとの付き
合いが浅いと思いますが、
昨年まで長崎県腎臓病患者
連絡協議会の役員や通院送
迎事業の理事をしていた関
係で二年間、江頭さんと一
緒に平戸市の腎友会で通院



送迎事業の立ち上げの活動
をしていました。

江頭さんは言葉だけでは
なく、行動力もある方でした。
それを見習って今後も活
動を行なっていこうと思ひ
ます」と話されました。

続いて大学時代からの友
人である園田裕道さんがサ
ックスの演奏をしてくださ
いました。

その後、長年江頭さんと
親しかった関係者や友人の方々
に江頭さんとの思い出等を次々
と話していただきました。

また、八幡事業所のボラ
ンティアの神田正巳さんよ
り松口月城作の詩吟『名槍
日本号』を披露していただ
きました。

次に園田氏の音頭で、江
頭さんが学生時代に皆さん
と共に良く歌っていたとい
う『焼酎の歌』を参加者全
員で歌いました。

最後に喪主の江頭眞紀子
様は「本当に楽しい会にし
ていただき、ありがとうございます
ございました。

これからも皆様と江頭の
縁で、お付き合いを続けて
いただけたらと本当に心か
ら願っております」と挨拶
がありました。

その後、参加者と記念写
真を撮り、偲ぶ会は午後四
時に終了しました。